

園長だより

2025年1月24日

園長 澄川忠男

「1月は行く」と言われます。いつの間にか1月も終わりそうです。「2月は逃げる」「3月は去る」とも言われるように、年度末に向けてどんどん時が過ぎそうです。「今年度の総まとめ」と「次の年度の0学期」を意識して、毎日の生活を考えていきたいと思えます。

園では2月22日の発表会に向けて、子どものアイデアを取り入れながら、練習しています。少しずつ少しずつ毎日取り組んでいるようです。各クラス担任に任せていますので、私も本番が楽しみです。乞うご期待！

生きる勇気を湧き起こすほめ方！

メンタルケアコンサルタントの大美賀（おおみか）直子さんのブログに、「**やってはいけない3つのほめ方**」という紹介がありました。（「日本講演新聞」社説から一部引用）

①ささいなことでほめる

子どもや部下はほめられることが当たり前になり、「ほめ言葉」という報酬が与えられないと不満や不安を感じるようになる。

②何かをやらせるためにほめる

勉強させるため、または自分がやりたくない仕事をさせるために、例えば「君は頭がいいからできる」といった言葉が通用するのは最初だけ。すぐに「おだて」に気づき失望させてしまう。また、失敗を恐れるようになってしまう。

③人格以外のことでいつもほめる

「素敵なお洋服ですね」などとほめることは悪くない。だが、相手がいつも容姿や学歴、持ち物などでほめられていると、次第に「私の価値は表面だけ？」と寂しい気持ちになり、場合によっては、表面的な価値を死守しようと躍起になる。

ではどんなほめ方がいいのでしょうか。 大美賀直子さんによると・・・

「すごいね」「えらいね」という評価するような言葉より、**自分が感じた素直な気持ちを表現するほうが効果的**だということです。

その言葉とは「ありがとう」や「うれしい」であるとのことです。これらの言葉は、ほめてもらった上に、相手にも喜んでもらえたうれしさが加わってくるからです。大美賀さんも、「言われたほうはやる気がみなぎり、さらには生きる勇気につながる」と言われています。

また、相手のほめ所を見つけられる感性も大切であるとのことです。我が家で、妻が何かしてくれたときの「ありがとう」を忘れないようにしたいと思いつつ・・・たまに忘れてしまうことがあります。わたしの感性がまだ育ってないのでしょうか。心から思わないと自然に出ないのでしょうかね。60歳を過ぎてもまだまだ学んでいる途中です！お恥ずかしい！

「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」「おいしかったよ」・・・を素直に感じて、自然に相手に伝えられるような人になりたいです。

■2月8日（土）10:00～12:00に、本園で行われる『下関ふくレポリビューション』

は、さくら組・もも組へのご案内となります。全員に案内できなくてすみません。

■本日、アンケートにかかわるメールを配信しました。よろしくお願ひいたします。